

ナイトナースをはじめて

訪問看護ステーションはーと管理者
木戸 恵子

訪問看護師になり、25年がすぎた。在宅療養者が安心して暮らせるよう精一杯支援してきた。在宅医療が進化し、高度な医療的ケアがある方や複数の疾患を抱えている方の在宅生活が可能になり、感謝の笑顔や言葉を頂くたび、看護職としてのやりがいを感じている。

一方、訪問看護の24時間対応体制は看護職員の身体的・精神的負担が大きいことが注目されており、課題となっている。

さらに最近、時代の流れの中で、訪問看護ステーションがたくさん立ち上がり、働き手や利用者の確保がむずかしくなったことは事実であり、経営や存続に頭を痛めるステーションも多い。

経営戦略としての新しい体制作り

私たち訪問看護ステーションはーとは昨年3月より、「支えられる側」と「支える側」の安心と安全そして、働き方のバランスを整え、さらには、運営の戦略として新しい体制づくりを始めた。

訪問看護ステーションはーと

- ◆職員 看護職員 14名 (常勤換算11.2人)
+PT 1名 OT 1名
事務職員 5名
ケアマネージャー 4名
- ◆一ヶ月の訪問看護利用者数 約170名
- ◆一ヶ月の平均延べ訪問件数 1,200~1,400件
- ◆利用者割合 = 6:4
医療保険の方が多い
⇒末期がんの方・難病の方が多
- ◆在宅看取り 月に1名~4名
年間で46名 (R3年度)

理想の課題

未来を見据えた
創造性豊かな看護・福祉の実現

↓

柔軟な考えや働き方が可能な
人材の発掘が必要

41

ナイトナースの働き方

勤務時間: 出勤17:00 退勤 翌9:00

職務内容: 申し送り
夜間の動きを想定したラウンド
および 同行訪問
訪問は8~10件 程度

43

ナイトナースの概要

- 地域の住民が重症になっても安心して24時間在宅療養できるための方策
- 職員がワークライフバランスのとれたこちよい働ける環境づくり

↓

この2つの目標を実現するために
ナイトナースが始動

42

今までの 24 時間対応体制＝オンコールというスタイルを脱して、夜間訪問看護師(ナイトナース)という、勤務体制をつくり 24 時間営業スタイルに換えてみた。準夜深夜にあたる時間も利用者宅に訪問し、計画的訪問を提供し、緊急の相談電話をうけ、必要ならば訪問対応したり、契約している有料老人ホームの相談支援やみまわりなどが、夜間帯の業務となる。朝・夕の経管栄養・吸引や投薬、終末期の利用者の体調と環境の管理・ご家族への配慮、退院直後の医療処置やご家族への医療的ケアの指導なども担うことができる。

ナイトナースの利用者内訳

- ターミナルのかたの計画的な訪問
- 経管栄養・医療的ケアが必要なかたの訪問
- 日中勤務をされている方の医療的サポート
- 緊急訪問
- 介護スタッフのサポート

44

ナイトナースの効果

ナイトナースの効果として、緊急対応もオンコール体制よりもはるかに迅速にできるため、利用者の期待度も高く、新規利用者の人数が増えた。

ナイトナースの効果(利用者)

- 重症者でも在宅療養ができるようになった
- 家族・本人の負担、不安の軽減につながった
- 緊急電話への連絡のハードルが下がった

45

ナイトナースの効果(ST)

- 日勤の超過勤務が減少してきた
- オンコールの負担が緩まり
- ワークライフバランスがとれるようになった

46

看護職員の働き方としてオンとオフのメリハリがきちんとでき身体的負担が軽減された・職員家族への気遣いがなくなり精神的負担が緩和された、夜の医療処置もナイトナースに任せられるので心と時間に余裕ができたなどの感想が上がった。加えて、病院で働く若いナースがナイトナースに関心を持ってくださり、非常勤で就業してくれるようになり、人材の発掘と確保につながった。日中とは違う環境での勤務に起こりやすい不安や心細さは、ICT を活用し管理者やリーダー・時には主治医とも連携することにより、安心感が保たれ、働き手の孤独感は解消されている。

ナイトナースの課題

ナイトナースの課題

- 質の維持ができるようにするための教育手段
(同行訪問が難しい)
- 人件費の確保
- 雇用に関すること

48

たくさんの先輩たちが切り開いてくださった歴史ある訪問看護も質の充実と維持をしないと事業存続に影響する正念場にきている。時代に沿うスタイルにバージョンアップさせ、地域の社会資源として必要不可欠なものに成長させながら未来に向かっていきたいと願っている。